

やまなしライフサポート

LS YAMANASHI LIFE SUPPORT

NEWS LETTER20号 2022年11月発行
NPO 法人やまなしライフサポート
〒400-0836 甲府市小瀬町 654
山梨カトリック福祉センター
TEL/FAX 055-241-2545
E.Mail yls@mx6.nns.ne.jp
ホームページ http://yls.or.jp/

つながること -心のふるさとになるために-

「地域における人的つながりを通して、路上生活者や生活困窮者の自立支援を目指す」という活動目標を掲げて、NPO 法人やまなしライフサポートは12年間歩んできました。「炊き出し: 10年間で500回を記録したが、コロナ禍のため2020年から食料配布に変更」、「見守りパトロール: ボランティアと共に隔月で実施」、「ふれあいサロン: 相談支援、生活支援」、「緊急一時宿泊: 無料のシェルター」。これらの活動を通して私たちが実施してきたことは、被支援者が失ってきた家族や地域社会とのつながりを回復するための手助けです。

統計によれば、2010年の山梨県内の路上生活者の数は36名(全国で13,124名)でしたが、2022年には県内は2名(全国では3,448名)と激減しました。しかし、これは日本が豊かになったからではなく、貧困の根が日本全土に深く浸透してきているために、以前のような目視による調査が困難になったからです。

「ヤングケアラー」とは、本来大人が担うべき家事や家族の世話を日常的に行い、親の介護や身の回りの世話を毎日担っている子どものことです。悲しいことに現在日本の小学生の15人に一人がそれに該当し、子どもの7人に一人が貧困状態にあると報告されています。また、親による放任や虐待が入所理由として一番多い児童養護施設には、約3万人もの子どもたちが暮らしています。施設には幼児から18歳までの子ども達が在籍していますが、中学を卒業すると施設を出て通信教育を受けながら働く子どももいます。親の支援がない状況で、未成年が自立することは想像できない程厳しいことです。現代日本のワーキングプアと呼ばれる若者の13.5%がホームレスを経験しています。

職と住居を失って路上生活者となり、生活困窮者自立支

NPO 法人やまなしライフサポート理事長 中山八十司

援制度の一時生活支援を利用する若者の数が増加しております。ライフサポートが4つの市から委託を受けている事業です。衣食住が無料のシェルター、ライフ荘に滞在してもらいながら、就労を希望する方には履歴書の書き方や面接の指導も受けられます。看護師による健康管理、健康相談も受けることができます。必要な場合は無料低額診療事業を利用するために病院への同行支援もしております。また、更なる利点は県内4社、近県に5社あるライフサポートへの協力企業の存在です。経営者の特別な配慮により、これらの企業への就職定着率が70%になっております。

しかし、ここ数年ライフ荘を利用して、就労支援を2度3度と繰り返し受ける若者が増えております。「仕事が自分には合わない」、「重労働に耐えられない」、等の弱音をばく若者達を非難してきましたが、彼らが直面している現実の厳しさを理解するようになりました。むしろ、彼らが苦しい時に戻ることができる、故郷のような場所としてライフ荘が必要なのかもしれないと思えるようになりました。彼らのライフ荘利用申請書で共通することは、家族構成欄で両親のところが空欄か生存不明、住民票が取れないという2点でした。

ここ10数年の間、苦しい時につながってきた若者たちが何人もおります。就労支援を繰り返し、マグロ船の船員になったこともある青年は現在、障害者手帳を取得して施設で充実した生活を送っています。通信教育で高校を卒業し、困難を乗り越えながら次々と大企業へ転職し、今年30歳で台湾の企業にヘッドハンティングされ、係長になったと連絡してきた青年もおります。電話で苦しみや楽しい話をした最後に、「いつか山梨に帰って、ライフ荘でご飯を食べたいよ」。ライフサポートの活動が心のつながりとなり、ふるさとになれば幸いです。

2022 年度上半期の主な活動実績

2022年4月～2022年9月 人数は延べ数

食料配布(炊出しに替えて)	907名(24回)	緊急一時宿泊(ライフ荘)	206泊(31名)
健康相談	997名(74回)	生活保護申請同行	2名(受給実績4名)
路上生活者面談	69名(55回)	就労相談、就労サポート	67名(就労実績15名)
生活保護・年金受給者面談	113名(68回)	見守りパトロール	69名(31回)

特集 食料支援

コロナ感染症予防のため、それまで行ってきた炊出しを中止し、代わりに2020年5月より食料配布活動を行っています。毎週木曜日の午後、甲府市中心部のカトリック教会の庭をお借りし配布しています。平均35～40名位の利用があり、炊出しの頃の利用者よりも5～10名増加しています。

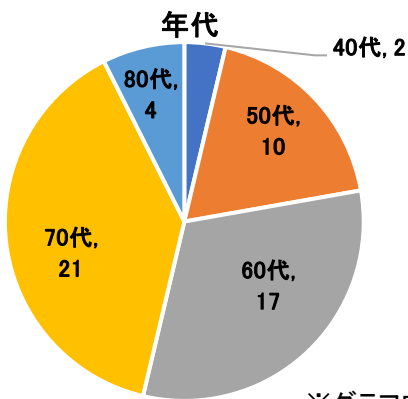
配布物は、お米3合、レトルトカレー、アルファ米、カップ麺、缶詰、野菜等で1日～2日の食を支えられる量となっています。やまなしライフサポートでは利用者の実態を把握するため、食料配布来場者にアンケート調査を実施しました。

食料配布利用者アンケート

1. 利用者のプロフィール

【年代と性別】

70代が最多で、60代、50代と続きます。男性で、一人暮らしの方が多数を占めています。



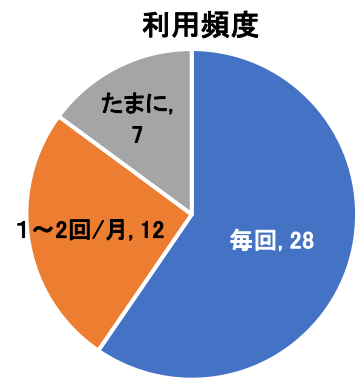
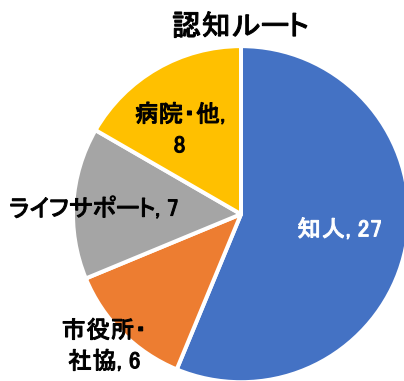
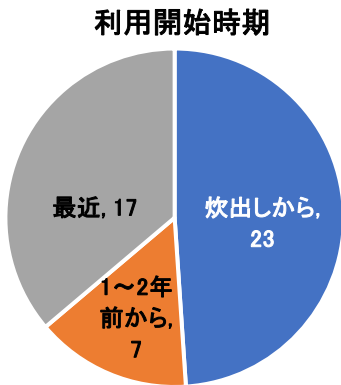
男性:女性	=37人:11人
世帯人数	
1人	39人
2人	9人
3人以上	0人

アンケート調査の概要	
・実施日	2022年9月の食料配布日
・実施対象	食料配布会場への来場者
・実施方法	当法人職員による面接聞き取り方式
・回答数	48名

※グラフ内の数値は実数です

【利用の時期と経緯】

利用を開始したのは3年以上前の炊出しからの継続者が多いですが、最近になって利用された方も多数います。知人に聞いて来た方が大半で、半数以上の方が毎週利用していただいています。

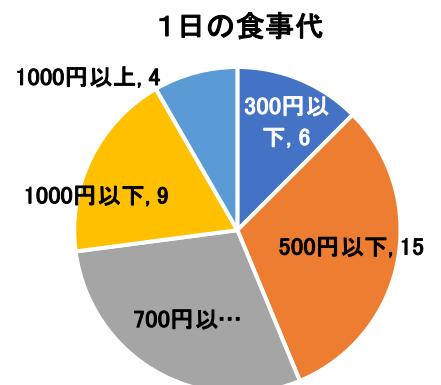
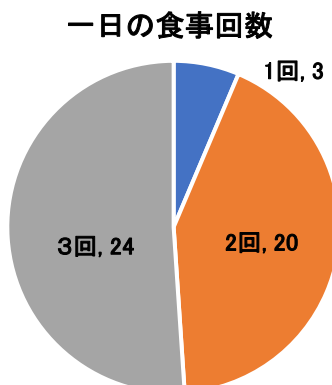


2. 利用者の食生活と収入

【1日の食事回数と食事代】

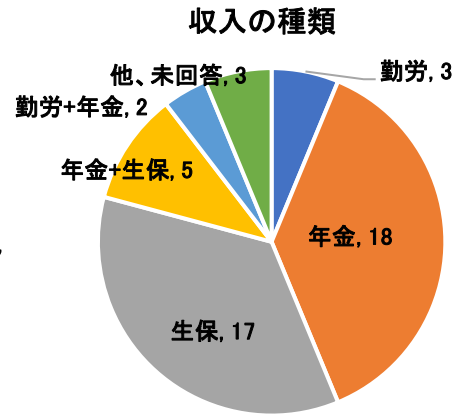
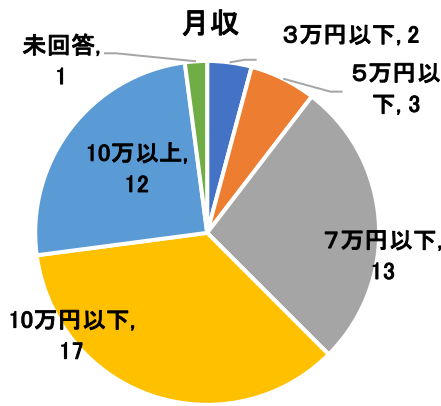
1日3食食べている方は半数。

1日当たりの食事代は700円以下の方が7割以上を占めています。



【月収と収入の内訳】

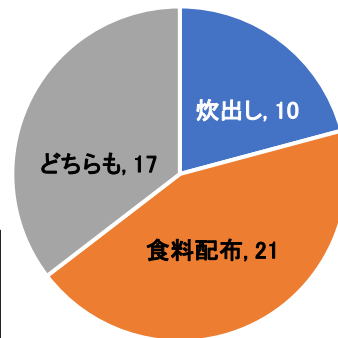
1ヶ月の収入は10万円以下の方が7割以上を占めています。
収入の内訳は、年金と生活保護がほぼ同数となっています。



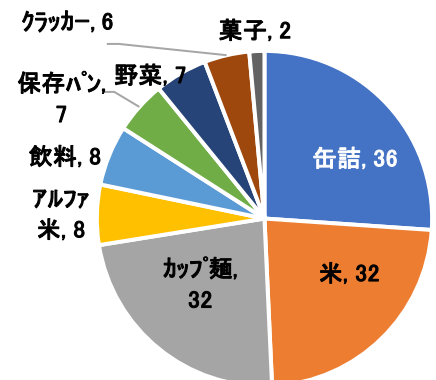
3. 食料配布への感想

炊出しとの比較では、食料配布への支持が高かった半面、炊出し再開へ期待もありました。
もらって良かった物のベスト3は、缶詰米、カップ麺でした。

炊出しと食料配布どちらが良いですか



もらって良かったもの



食料配布の方が良い理由

- ・家で必要な時に食べられる。
- ・何食分もらえる(炊出しは1食のみ)。
- ・炊出しの人混みがきらい。

炊出しの方が良い理由

- ・暖かいものが食べられる。
- ・皆と一緒に食べられる。

【利用者の声】

Iさん(50代男性、生活保護受給者)
糖尿病と高血圧のため訪問看護を利用しています。看護師が食事のメニューについて助言してくれるので、それを参考に自分で作っています。栄養バランスに気をつけているので、特にお米や野菜はありがたいです。

Mさん(60代男性、障害年金受給者)
昼は作業所に通っているので、朝食・夕食を自分で作っています。ご飯は1日おきに炊いていますが、もらったお米で足りており買ったことはなく助かっています。おかずは食材や惣菜の安いスーパーを探して、1週間分まとめ買いをしています。

4. アンケートを実施してみた

「低所得」、「独居」、「高齢」が利用者の実態を端的に表しています。コロナ禍の影響で最近になって利用しはじめた方も多く、年金や生活保護費の減額、一方で最近の食料品や光熱費の高騰が大きく響いているようです。この傾向はまだ続くと思われ、食料配布活動の役割は一層重要になると実感しています。

10月20日の配布風景と配布内容



食料のご寄付

やまなしライフサポートの活動を支援して下さる個人・団体様より多くの食料のご寄付いただいています。

今年度上半期にご寄付をいただいた皆様

	お名前(順不同)	内容
団体	フードバンク山梨様	アルファ米、カップ麺他
	山梨県社会福祉協議会様	缶詰、カップ麺、菓子他
	甲府市ボランティアセンター様	精米、レトルト食品、缶詰、カップ麺他
	岡部米店様	精米
	笛吹市社会福祉協議会様	災害用保存パン
個人	清水徳夫様(山梨市)	じゃがいも
	小池善治様(南アルプス市)	かぶ
	鶴田一路様(山梨市)	大根、じゃがいも、ニンジン
	丹治則男様(北杜市)	じゃがいも、キュウリ、ナス
	佐藤三男様(北杜市)	じゃがいも
	河野茂様(甲府市)	精米
	宮沢秀一様(北杜市)	精米

ご寄付いただいた方からの声

野菜

佐藤三男様(北杜市)
高根町で大根、小松菜、きゅうり等を作っています。主に学校給食や生協などに卸しています。余ったものや規格外のものは捨てるにはもったいなく、身近な誰かに食べてもらいたいと思っていました。
2011年の福島原発被害を見て、何かできないかと考え福島に野菜を送り始めました。その後やまなしライフサポートの活動を知りました。不揃いな野菜でも喜んで受取ってくれるので、生産者としてはとてもありがたいことです。これからも野菜作りを続けて協力していきたいと思えます。

お米

岡部米店様(甲府市)
ライフサポートさんとは近所でもあり、10年以上のお付き合いです。当初は玄米を持ち込んでもらい、炊出し用に有料で精米していました。このお付き合いの中で、ライフサポートさんの活動が少しずつですが理解できる様になりました。
ところが、2年前からコロナ禍の影響で週1回の炊き出しができなくなり、お米3合と食材の配布に変更するお話を聞きました。毎週40人以上の方に大量のお米と食材を用意することは大変な事と思いました。
町の小さな米屋ですが、出来る範囲で定期的にお米を提供し、今までの精米費用を食材に充てていただく様お話し大変喜んで頂きました。利用者の皆さんが毎週お米を貰うことで生活ができているとお話を聞き、胸がいっぱいになりました。

物品のご寄付を募っています

家を失った方が新たにアパートでの生活を始めるにあたり、様々な生活用品が必要になります。多くのご寄付をいただいておりますが、現在右記の物品が特に必要です。ご連絡いただきましたら当方より受け取りに伺いますのでよろしく願います。(家電製品は製造後10年以内のもの物をお願いします)

小型冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ、
小型テレビ、電気炊飯器、コタツ、
電気ポット、自転車、カーテン、布団

会員募集中です

やまなしライフサポートの活動を資金面で支えて下さる方を募集しています。

正会員(当団体を支援し活動に参加して下さる方。総会での議決権あり)	年会費 個人 5,000 円 団体 10,000 円
賛助会員(当団体の活動を応援して下さる方)	年会費 個人 3,000 円 団体 5,000 円

入会申込書は、やまなしライフサポートのホームページ(<http://yls.or.jp/>)からダウンロードすることができます。